

自然の保護と自然環境の保全

有 末 武 夫

尾瀬に自動車道路を通す計画は、今は亡き長蔵小屋の主人の努力によって、また前環境庁長官の助力によって一応はくいとめられた。しかし最近には北海道の大雪山や、日光の霧降高原に自動車道路を建設することを、環境庁が許可したとか、それらは自然を破壊するとして地元の自然保護団体が猛烈な反対をしているということが話題になっている。また高速道路や新幹線は公害を運んでくるから絶体反対であるとか、空港の設置は農民の権利を剥奪するもので憲法違反であるというような議論も聞かれる。

ここで考えなければならないのは、自然の保護と自然環境の保全ということは、全く立場を異にするものであるということである。環境という言葉は、人間または生物をとりまき、それらと相互作用を及ぼし合うところの外界をさしている。自然環境とは人間生活との関連においてとらえられた自然である。海岸砂丘を例にとって自然の保護と自然環境の保全との関係を考察してみたい。河口から大量の砂が供給され、沿岸流によってそれが海浜に打ち上げられ、強風で内陸部に運ばれると砂丘の形成または移動という現象が起こり、内陸部では植被をはじめ耕地や集落などの埋没が生じる。この場合、防風林や防風施設を完備して飛砂を防ぎ、砂丘を固定化しようとするのが自然の保護なのか、それとも砂丘の形成や移動あるいは発達を自然にまかせることが自然の保護なのか問題となる。鳥取砂丘では観光業者が砂丘の保護をとなえていると聞くが、その内容は、砂が風によって移動する景観を保持したいということのようで、耕地や集落が砂に埋没するのを防ぐこととは表裏の関係にあるようだ。

富士山の大沢崩れにしても同様である。崩れそうな部分にコンクリートを吹きつけて崩れないようにすることが自然の保護なのか、侵食という自然現象を自然のままに作用させることが自然の保護になるのかは、早急には断定できない問題ではなからうか。

しかし自然環境の保全という場合には、そこに人間の生活がはいり込んでくるために、善悪の判断の基準が明確になってくる。海岸砂丘の場合は、砂丘の固定化が自然環境保全の第1であり、また最終段階とも考えられるが、その基盤としての沿岸の漂砂の防止、あるいは砂の供給を少なくするための河川の流域の砂防などは、より重要な自然環境の保全となるのである。もし私たちが、自然はあくまで自然のままの姿として守らなければならないという態度に徹するならば、人類社会は

原始時代に逆もどりし、人口も何百万分の一に減らさなければならないだろう。私たち地理を学ぶ者は、自然の保護と自然環境の保全とが、その立場を異にすることをわきまえて、いわゆる進歩的文化人たちのいう空虚な主張と、実際の社会生活を営んでいる人たちの切実な要求とを、聞きわけだけの識見や能力を身につけたいものである。

ヨーロッパで思うこと

大和田 順子

レオナルド・ダ・ビンチ空港からバスで1時間、ローマ市内に入ると、アパート群が立ち並んでいる。このアパートの高さは大体4階乃至5階、地域の高低によって4階だったり5階だったりしていて、建物の高さがほぼ一定している。日本のように、ところどころに48階建があったり15階建があったりしているのとはちがって、高さのデコボコが少ない。これは法律で高さの基準がきめられているとのことであった。そしてアパートのすべての窓という窓辺には、花が美しくかざられていた。赤いゼラニウムと真紅のバラの花が多かったが、地中海性気候の澄みきった紺青の空とあかるい太陽の下に、まことに美しい調和をなしていた。日本のようにすべての窓が洗濯物のオンパレードとはちがっている。

スイスではなおさら美しい。国全体が観光に気をつけているせい、すべてが公園のように整備されていて、紙くず一つ落ちていなかった。イタリアやイギリスでは大分紙くずの散らかっているのを見かけたが、スイスではほとんど見られない。これは毎日早朝道路清掃人が掃除をするからだということだった。そして各家庭の窓辺はやはり美しい花で飾られており、庭には花が真紅に黄色に美しく咲き誇っていた。私の行った時期が観光のシーズンであったせいもあるが、スイスの人達は自分達が生活して楽しいだけでなく、それを眺める人達にもこころよい気持を与えるよう心づかいをしており、生活の余裕と豊かさを如実に示していた。

フランスやベルギー、オランダでも同様であった。ベルギーやオランダのあたりになると位置がかなり北になるので気温が低くなるせい、花は家の外の窓辺ではなく、室内の窓のあたりに飾られるようになる。したがって、窓枠の色とかカーテンの色とかが外から眺めて気になるので、窓枠の色とかカーテンの色が法律できめられているとか、いろいろと凝った模様の白いレースのカーテンがとても印象的だった。勿論洗濯物など干していない。洗濯物を外に干すことのできる日は月曜